

## 2011年度人文地理学会大会

2011年度人文地理学会大会は、2011年11月12日～14日（14日は巡検のみ）、立教大学（東京都豊島区）において開催された。54件の一般研究発表、4件の特別研究発表が行われ、この他に同時開催された研究部会で5件の研究発表がなされた。主な人口関連の発表は、外国人、人口移動、高齢化、人口分布などに関するものであった。以下にその発表タイトルを記す。

『『多文化共生』に関するホスト側住民の意識の違い

—三重県四日市市の日系ブラジル人集住地区を事例に— ……………福本 拓（三重大学）  
藤本久司（三重大学）  
江成 幸（三重大学）  
長尾直洋（松阪看護専門学校）

「戦時期に登場した在日コリアン集住地区における場所の記憶の形成と変遷

—京都府宇治市ウトロ地区を事例に— ……………全ウソフィ（大阪市立大学・院生）  
「東京都中央区における新築のジェントリフィケーション」……………藤塚吉浩（高知大学）  
「転出者の行動からみた埼玉県戸田市の特徴」……………山口 晋（目白大学）  
山本哲史（戸田市政策研究所）

「近年の農村地域における U ターンの動向—兵庫県多可町加美区の調査を中心に—」

……………貴志匡博（国立社会保障・人口問題研究所）

「年齢構成を考慮した世帯所得の地域格差分析

—人口高齢化は所得格差拡大の要因か？— ……………豊田哲也（徳島大学）  
「島根県中山間地域における無住化集落の分布と空間的特徴」……………作野広和（島根大学）  
（貴志匡博記）